

本社

石清水八幡宮の本社は、日本最大かつ最古の八幡造りの神社建築の例であり、本社にある多くの建造物が国宝に指定されています。この本社は、1634年に徳川三代将軍である徳川家光（1604-1651）の下で、長年にわたり行われた大規模な修造が完了しました。石清水八幡宮は、その他にも数多くの権力ある領主から支援を受けました。最初の偉大な天下統一者とみなされている織田信長（1534-1582）は、金でコーティングされた雨樋を寄進し、信長の後継者である豊臣秀吉（1537-1598）は資金を寄進し、初代徳川将軍である徳川家康（1543-1616）は神社のある八幡の町を課税対象から除外しました。

本社の正面を飾る精巧な2階建ての楼門は、参拝者が通常、祈りを捧げる所です。この門は、中の建物を囲む屋根付きの廊下へと延出しています。門を過ぎると神職が儀式を行う祈祷所があり、この祈祷所は神社の本殿とつながっています。すべての建物が明るい朱色で塗られており、植物や動物、神話上の生き物など150点以上の色鮮やかな木彫によって彩られています。

石清水八幡宮の本殿は八幡造りの建築様式の特徴を持っています。一見すると通路でつながった2つの別々の建物のように見えますが、2つの切妻屋根を持つ1つの建物です。本殿の中は外側と内側に分かれていて、そのどちら側にも3つの部屋が並んでおり、部屋ごとに神様が祀られています。神々は毎日の祈祷の間は外側の部屋に居て、休憩のために内側の部屋に下がると信じられています。

本社のガイド付きツアーは神職によって行われており、石清水八幡宮や地元の伝説に関する詳細が紹介されます。ツアーは通常日本語で行われますのでご注意ください。